

## 植物生長調節剤の利用によるモモ「日川白鳳」の発育枝伸長抑制と品質向上

[要約] ハウス栽培のモモに満開35日後と50日後にバウンティフロアブル 1,000倍を散布すると、発育枝の伸長が抑制され、果実品質も向上する。また、2年間の連続使用でも問題は見られない。

長崎県果樹試験場・落葉果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	普及
----------------	----	----	----	-----	----	----

平成6、7年度長崎県果樹試験場業務報告

### [背景・ねらい]

モモは幼木の間は栄養生長が旺盛で、発育枝が徒長し、花芽の着生が悪い傾向にある。また、過繁茂になりやすいため、果実の着色不良や糖度の低下などの問題も生じている。そこで、ジベレリンの生合成阻害作用があるパクロブトラゾールを有効成分としたバウンティフロアブルの発育枝伸長抑制効果を確認し、果実品質に及ぼす影響について検討した。

### [成果の内容・特徴]

- ①バウンティフロアブル1,000倍を満開35日及び50日後に茎葉全面散布するとその後の発育枝の伸長が抑制される。
- ②バウンティフロアブルの散布によって収穫時の果実は大きくなり、着色も向上する。糖度も高くなる傾向にある。
- ③2年連続してバウンティフロアブルを使用しても樹体等への悪影響は見られない。

### [成果の活用面・留意点]

- ①老木や樹勢の低下した樹やわい性台を使用した樹に散布すると樹勢低下を促進することがあるので、使用を控える。
- ②登録要件では、満開後12週間以内に限って、合計4回までの散布が認められているが、残効が非常に長い薬剤なので多用は避ける。

[ 具体的データ ]

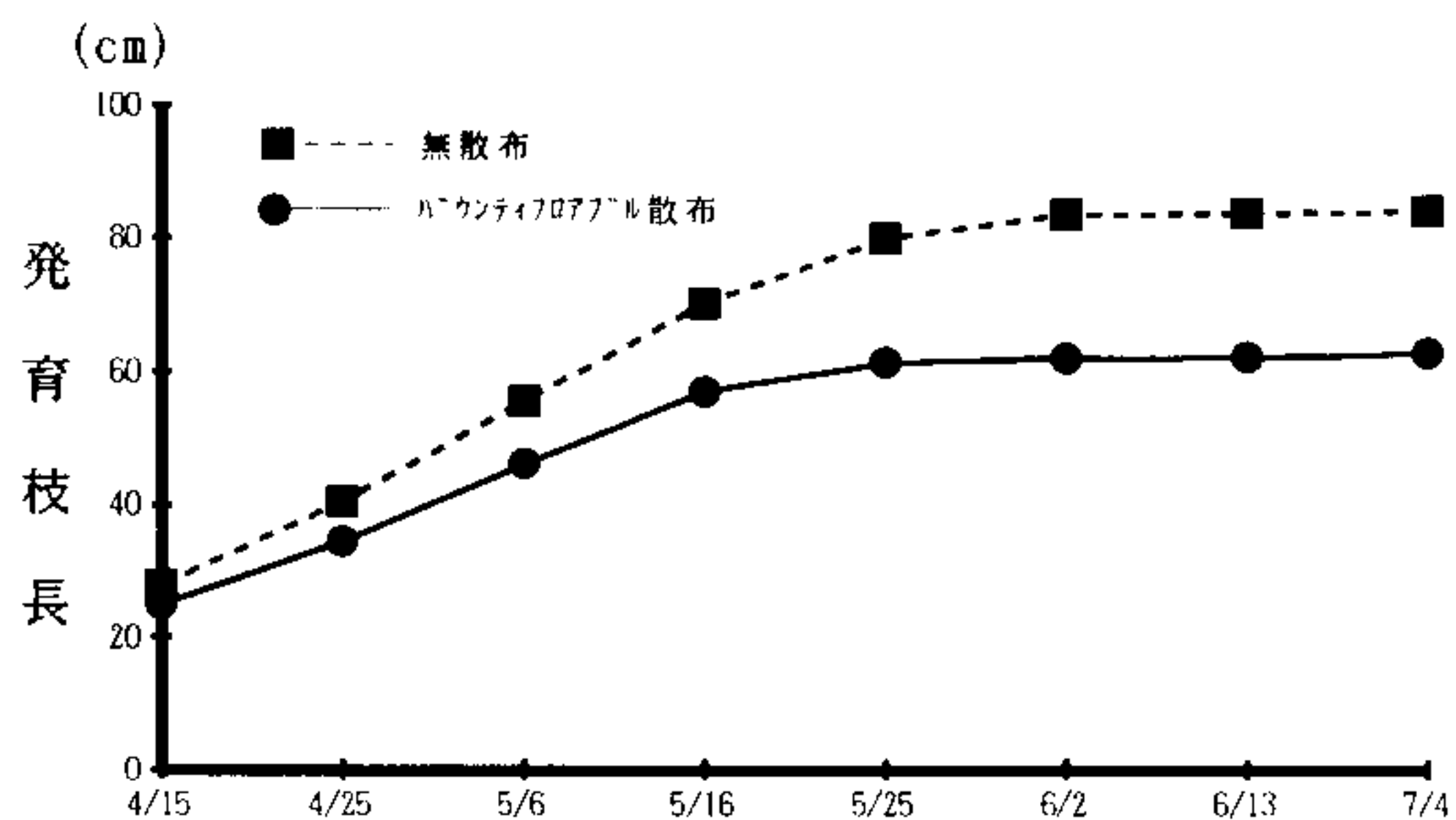


図 1 バウントフル散布と発育枝の伸長  
(1994)

表 1 ハウントフル散布と果実重及び果実品質(1995)

処 理	果実重	着色歩合	糖度	p H
連年散布	253.8a <sup>2</sup>	7.6a	12.3a	4.42a
単年散布	229.9ab	8.2a	11.2a	4.51a
無 散 布	161.9b	2.8b	9.5a	4.38a

<sup>2</sup> 縦の異なる文字間には5%レベルで有意差あり

[ その他 ]

研究課題名：ハウスモモの高品質果実の安定生産技術の実証

予算区分：県単

研究期間：平成7年度（平成6年～）

研究担当者：林田誠剛，森田 昭

既発表論文等：平成6，7年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：長期間（3年以上）にわたって使用した場合の樹体への影響